

令和元年度上半期の総合防災訓練の実施結果について

1 春の避難所総合訓練

(1) 実施日時等

ア 日時 令和元年5月26日(日) 午前10時から正午まで

イ 場所 柳町小学校

ウ 参加者

(単位：人)

No.	所属	人数
1	区民防災組織	41
2	区民(体験型訓練参加)	123
3	学校職員・PTA	3
4	防災関係機関等(小石川医師会・小石川歯科医師会・文京区薬剤師会・小石川消防署・小石川消防団・富坂警察署・文京手話会・文京区アマチュア無線局非常通信連絡会・日本郵便株式会社)	42
5	区職員	33
	合計	242

(2) 訓練テーマ 「初動対応と情報管理」

(3) 訓練内容

ア 避難所運営訓練

学校施設を使い、避難者を受け入れる準備をするとともに、避難所運営協議会員を中心に実施した。

No.	役割	訓練内容
1	本部室	避難所本部開設、施設内の利用計画策定、避難所運営ルールの検討
2	総務情報班	避難者受付、避難者名簿作成、情報掲示(帰宅困難者受入施設、妊産婦・乳児救護所への案内等)、災害時特設公衆電話設置
3	避難者援護班	居住スペース確保、施設内の定期的な安全点検、プライベートテント設営
4	救護衛生班	医療救護所設営、避難所内の衛生管理、医師のトリアージ補助、応急手当、トイレ設営・説明
5	給食物資班	飲料水の確保、照明機材の取扱確認、炊き出し

イ 体験型訓練

消火訓練、起震車、煙体験ハウス、防災体験ツアー、応急救護訓練(AED取扱い、心肺蘇生法)、医療救護所体験

ウ 展示ブース

小石川消防署・小石川消防団、富坂警察署、日本郵便株式会社、文京区アマチュア無線局非常通信連絡会

(4) 実施結果

訓練テーマを「初動対応と情報管理」とし、避難所開設キットによる初動対応訓練を行っ

た。

また、迅速かつ効率的な情報管理の方法を身に付けるため、文京区アマチュア無線局非常通信連絡会の指導の下、協議会スタッフが無線機を使用し受付から本部班への人員報告の際に無線連絡を行うとともに、各班も無線交信を受信し情報共有及び管理の訓練を行った。

2 夏の避難所総合訓練

(1) 実施日時等

ア 日時 令和元年7月28日(日) 午前10時から午前11時30分まで

イ 場所 窪町小学校

ウ 参加者

(単位：人)

No.	所属	人数
1	区民防災組織	49
2	区民(体験型訓練参加)	171
3	学校職員	2
4	防災関係機関等(小石川医師会・小石川歯科医師会・文京区薬剤師会・小石川消防署・小石川消防団・大塚警察署・文京手話会・文京区アマチュア無線局非常通信連絡会・日本郵便株式会社・東京都トラック協会文京支部)	52
5	区職員	35
	合計	309

(2) 訓練テーマ 「健康管理と衛生管理」

(3) 訓練内容

ア 避難所運営訓練

施設を使い、避難者を受け入れる準備をするとともに、避難所運営協議会員を中心に実施した。

No.	役割	訓練内容
1	本部室	避難所本部開設、施設内の利用計画策定、避難所運営ルールの検討
2	総務情報班	避難者受付、情報掲示(帰宅困難者受入施設、妊産婦・乳児救護所への案内等)、災害時特設公衆電話設置
3	避難者援護班	居住スペース確保、施設内の定期的な安全点検、ダンボールベッド・プライベートテント設営
4	救護衛生班	医療救護所設営、避難所内の衛生管理、医師のトリアージ補助、応急手当、トイレ設営・説明
5	給食物資班	飲料水の確保、照明機材の取扱確認、炊き出し

イ 物資搬入訓練

東京都トラック協会文京支部と連携した物資の搬入訓練を行い、避難所での受入訓練及び物品管理を行った。

ウ 体験型訓練

消火訓練、起震車、煙体験ハウス、防災体験ツアー、応急救護訓練（A E D取扱い、心肺蘇生法）、医療救護所体験

ウ 展示ブース

小石川消防署・小石川消防団、大塚警察署、文京区アマチュア無線局非常通信連絡会、日本郵便株式会社、船山株式会社、大塚製菓株式会社

(4) 実施結果

訓練テーマを「健康管理と衛生管理」とし、居住スペースにおいて夏の暑さから身を守る方法や、避難所でも実施可能な水分補給等について、パネルやDVD等で周知した。

また、食中毒・感染症対策の紹介や、衛生管理に特に留意すべきトイレやごみ捨場の環境維持方法及び清掃方法について、パネルで情報提供を行った。

3 防災フェスタ

(1) 実施日時等

ア 日時 令和元年8月25日(日) 午前10時から午後1時まで

イ 場所 教育の森公園及び文京スポーツセンター

ウ 参加者

(単位：人)

No.	所属	人数
1	区民	2,664
2	防災関係機関等	335
3	区職員	40
	合計	3,039

(2) 実施内容

ア 一斉防災（危険回避）訓練（午前10時から3分間実施）

(ア) 区民及び訓練参加者に対して、防災行政無線、戸別受信機、「文の京」安心・防災メール、区報、ホームページ及び各種SNS等により一斉放送の事前周知を図った。

(イ) 区民及び訓練参加者は、午前10時の防災行政無線及び戸別受信機による一斉放送を合図に、一斉防災（危機回避）訓練を行った。

イ 観覧型訓練（午前10時から午前10時40分まで）

防災関係機関（消防署、消防団、消防少年団、警察署、災害時専門ボランティア及び自主防災組織）が救助活動及び消火活動の訓練を行った。

(①初期消火訓練、②倒壊家屋からの救出・救助訓練、③警備犬による検索訓練、④高所からの救助訓練、⑤一斉放水)

ウ 体験型訓練

身近な体験を通じて防災意識の啓発と防災行動力の向上を図った。

(炊き出し訓練、給水訓練、初期消火訓練、A E D取扱い・心肺蘇生法、起震車体験、煙体験ハウス、強風体験、防災機関車両展示、り災証明発行訓練、バッテリーカー試乗、防災カルタ、ペーパークラフト)

エ 防災教室

身近なスポーツをしながら防災知識を学べる「防災サッカー」や、娯楽から学べる「防災落語」など、子どもから大人まで楽しみながら参加できる防災教室を開催した。

オ パネル展示

災害時に相互協力の協定を締結している地方公共団体、協定事業所、大学及び区内事業所等における防災活動状況等について、パネル展示や説明員等による防災普及活動を実施した。

(3) 実施結果

観覧型訓練では、自主防災組織が行う救出、救護訓練や警察及び消防機関による救助活動及び消火活動を実施することにより、区民に対し震災に対する備えについて強く啓発することができた。

体験型訓練では、起震車、煙体験ハウス、初期消火訓練や給水訓練などのほか、今年度は東京消防庁消防救助機動部隊が保有するブロアー車による強風体験を行い、震災だけでなく風水害に対する防災意識への啓発も行った。

家族単位での参加が多く、A E Dの使い方がよく理解できたという意見や、子どもと一緒に楽しみながら防災について学ぶことができたというアンケートの回答が多く、幅広い年齢層に対し、防災に関する情報等の周知・啓発が行えた。